

「出来ない」を補い合う

《中学生の部 金賞》

高取北中学校三年 青井 優樹

人には必ず向き不向きがあり、だれしも一つは「出来ない」を持っている。例えば、勉強が出来ない、運動が出来ない、人前で話すことが出来ないなど色々な人が色々な「出来ない」を持っている。

そういった「出来ない」を補い合うということこそが力を合わせて取り組むということだ。この「出来ない」というのを「出来る」にするのは簡単なことではない。だからこそ補い合うことになる。

「出来ない」を責めるような声が目立ち始めてしまうと決まっていたのも物事は上手いかなくなってしまふ。僕が中学二年生の時の体育祭がそうだった。中々思うようにいかず「出来ない」を責めるような声が目立ち始めてしまい、本番で良い結果を残す事ができなかった。「出来ない」は悪いことではない。本当に悪いのは「出来ない」を補い合おうとしないことだ。「出来ない」を補い合うことで人は力を発揮することが出来る。つまり力を合わせて取り組むというのは「出来ない」を補い合うということだ。

きつと大丈夫

《中学生の部 銀賞》

高取北中学校三年 中田 莉胡

「力を合わせて取り組むということ」というテーマを見たとき、初めに思い浮かんだのは「部活」である。

私は今、吹奏楽部で部長を担当している。中学校生活最後のコンクールや学校での演奏もひかえる中、私には悩みの種が一つある。私は、本当に部長に向いているのだろうか。これまでも、はつきりと言えない、優柔不断な性格のせいで部員を何度も困らせてきた。決めなければならぬときに決められない、こんな私が部長で本当にいいのだろうか。そう思っていたとき、ある人が私にこう言った。

「あなたは一人で抱え込みがちだけど、みんなで協力したらきつと大丈夫だから。」その言葉で、私の心はすつと軽くなった。

力を合わせて取り組むということは、お互いがお互いを思いやることで成り立つのだと思う。きつとあの言葉も、悩む私に対するその人からの「思いやり」だったのだ。これからは、私から積極的に思いやることで、部員全員で力を合わせる事が出来るよう、部長として頑張っていきたい。

パズル

《中学生の部 銅賞》

生徒

力を合わせて取り組むということ。それは、一人ひとり足りないところをうめ合わせて一つのを完成させる、パズルと似ている。

人はそれぞれにパズルのピースを持っている。色が違えば形も違う。どれだけ完璧な人でも、一枚のピースだけではパズルは完成しない。一つ一つが大事な一枚だからだ。

私も実際に、同じような経験をしたことがある。パズルは、日常生活や学校行事に多く存在している。体育祭を例に考えてみると、一生懸命に応援をしたり競技に取り組んだりする姿やテントの準備や片付け、体育祭の運営をする中でも、パズルはあふれている。このうちのどれも、一人では達成できない。みんなそれぞれがお互いの特徴を知り、みんなでうめ合わせてたった一つのパズルを完成させたとき、力を合わせて取り組めたといえると思う。

だから、自分に欠けているところがあるのは当たり前だ。その欠けているピースをうめ合わせていけば、最高の一枚ができるはずだ。

力を合わせて頑張ろうね

《中学生の部 銅賞》

翠町中学校三年 池田 ゆう

「力を合わせて頑張ろうね。」私は中学校で吹奏楽部へ入り、マーチングもやっている。だからこの言葉は、大会前などでの決まりのような言葉だ。

私は、吹奏楽部で、クラリネットをやっていた。だが急に、バンドの為にバスケットをやってほしいと頼まれた。本当は、メロディーがやりたく、嫌で嫌で、仕方が無かった。そして、バスケットとして初めて出た、演奏会。みんなは笑顔で「力を合わせて頑張ろうね。」と言っている。だが私の心の中は正直、複雑でそんなの無理だと思っていた。本番中、バンド全員で、一気に盛り上がっていく所があった。あの瞬間、私は、バンドの縁の下の力持ちとなり、その誇らしさと、力を合わせることの喜びを感じた。

「力を合わせて頑張る。」それは、一人一人が自分の役割を果たし、一つの目標をみんな目指すことだ。そして誰一人やりたくないという人がいないこと、それが、力を合わせる事への鍵なのだ。私は今、あの時「力を合わせて頑張れた。」と、自信を持って言える。

みんなの理解で大きな力へ

《中学生の部 入選》

祇園中学校一年 石原 美月

私が人と力を合わせて取り組むときに大切だと思うことは、他人を理解する心だと思います。

私は、小学校のときから班長や学級代表など、みんなをまとめる立場にいた方だと思います。ただ、初めから上手にまとめられた訳ではありません。特に四、五月はみんなが相手のことを理解している訳ではないので、協力するのも難しいと思います。でも私は、全員が他人のことを理解できれば、上手に力を合わせられるのではないかと考えました。そこで、勇気を出していろいろな人と話してみました。他人のいいところがたくさん見つかり、得意なこと、苦手なことも見えてきました。相手を理解した上で協力しようと考えると、まず役割分担でそれぞれができるところに分けることができます。みんなが得意なことを生かして、より大きな力を合わせられると思います。

大勢の人が協力するのは難しいけど、みんながお互いに理解し合うことができれば、問題の解決に近づくと思います。

私が大切にすること

《中学生の部 入選》

祇園中学校一年 廣川 理彩

みなさんは、人と協力するときによいことを大切にしていますか。私は、相手の意見も自分の意見も大切にして行動することを大切にしています。

私が小学六年生だったときに、クラスで一つの議題について話し合いをしていました。話し合いで二つの意見が出ていて、どちらがより良いのかと意見を出し合っていました。そのときに一人の人が意見を出しました。

「Aの意見とBの意見を合体させて新しいCの意見を生み出すと良いと思います。」

私は、その発表を聞いたときに「確かにそうすると二つの意見を合体させて決めることができるからみんながハッピーだな」と思いました。その話し合いでは結局、新しいCの意見で決定してみんながハッピーで終わることができました。それは、みんなが協力して話し合って意見をまとめたおかげだと私は思います。私たちは協力することができました。

この話し合いがあつてから私は、協力するときには相手の意見も自分の意見も大切にして行動することを大切にしようと思いました。

力を合わせるための考え方

《中学生の部 入選》

祇園東中学校一年 霜越 怜

私は人と力を合わせて取り組むとき、相手の気持ちや考えを受け入れながら行動することを大切にしたいと考える。

なぜなら、自分の一方的な考えだけで行動したら、力を合わせるといことはできないからだ。自分の考えも伝えながら、相手の考えも尊重することで力を合わせるということができると思う。

小学校のとき、伝統である太鼓の演奏を長い時間をかけて練習した。太鼓の演奏は、みんなで力を合わせないとできない、とても難しい演奏だった。だから、一人だけの考えで練習するのではなく、それぞれの考えを伝えながら練習をした。この経験から、周りの人の自分とは違った考えも知ること大切だと学んだ。相手の気持ちや考えを尊重し合えることで、それぞれの個性や魅力などを知るきっかけにもつながると思った。

これらのことから、私は、人と力を合わせて取り組むとき、相手の気持ちや考えを受け入れながら行動することを大切にしたいと考える。

家族大作戦

《中学生の部 入選》

温品中学校二年 谷本 琉奈

少し前、お母さんが風邪をひきました。そこで、家族で協力して家事をしました。「いつもお母さんがやってくれているのに。」と思うよりも、「協力してみたら意外とできるかも。」という気持ちを大切にしました。

うちには弟が二人います。一人は五さい、もう一人は小学生です。まだ小さいけど、お母さんのためにがんばろうと、家事を手伝ってくれました。しかし、だいたいのことはお父さんがしてくれました。私は普段家事を手伝うようなことは、ほとんどしていません。ですが、この日は家のために力を合わせてがんばろうと思えました。洗たく、皿洗い、弟の世話など、たくさんの方がいましたが家族と協力して家のことを回せました。

お母さんがいない一日は大変でしたが、家族と協力すれば色々なことができました。

人と力を合わせるのに大切なことは、自分も一緒にがんばろうと思う気持ちだと思います。だからこれからも自分からしようという気持ちを持って協力していきましょう。

自分の思いを伝える

《中学生の部 入選》

福木中学校二年 柳生 雅美

「何でも良い。」これはグループ活動での私の口癖だ。私は自分の意見に自信を持てずついそう言ってしまう。でも、私は自分の意見を伝えることは力を合わせる時に大切だと思う。

私が班でまとめ新聞を作る時、誰が絵を描いて誰がサイトで調べるかという分担の話になった。その時、私は思い切って「私が絵を描きたい。」と伝えた。皆それぞれ自分の得意なことを担当した。私は絵を描くのは得意だが発表することはとても苦手だ。でも、自分の担当だから発表しないといけないと思っていた時、皆の前で話するのが好きな子が、

「君の発表部分を手伝うから絵を描くのを手伝ってよ。」

と言ってくれた。私はこの時すごく気分が楽になった。できないところを互いに補い合うことも大切なことだと思った。

ただ同じことを皆に分担するのではなく、得意なこと苦手なことは助け合って行うことが力を合わせるとのことだと思う。その上で自分の意見を伝えることは大切だ。

苦手なことも、力を合わせて：

《中学生の部 入選》

大州中学校二年 石川 愛華

力を合わせるということ。それはただ協力し合うだけではない。と私は最近知りました。

私は数学の授業がとことん苦手で、分からないことも多く、難しい問題を解くことは、なかなかできませんでした。そんな時に、まわりにいた友だちが、「大丈夫、教えようか。」と何度も何度も声をかけてくれ、私も少し、数学が得意になりました。また、いつも私に数学を教えてくれる子は英語が苦手らしく、私は反対に英語を教えました。おたがいに苦手なことが少しずつ克服できていると感じ、とてもうれしくなりました。

私は力を合わせることは協力して何かを達成すること。という印象が強くありました。しかし、それだけではなく、一人ではできないことをおたがいにおぎない合ってできるようにすることや、おたがいの違いを知り、どうすれば相手に伝わりやすいのか、どのようにすれば相手ができるようになるのかを考え合うことも力を合わせて取り組むということだと思いました。なので私は、これを心に留めたくさんの人と力を合わせたいと思います。

人との協力は一種の進化

《中学生の部 入選》

大州中学校二年 山本 美結

私は、人と力を合わせて取り組むということは進化をもたらすということだと思います。

私がそう考える理由は、日々の学校生活でそう感じるからです。学校では、みなで勉強を教えあったり悩みあったりする時間が多くとられます。お互いが積極的に話し合うと私の頭は考えがまとまって次のステップに進んだり、謎が深まりよく頭が働いたりします。これは日常に多くあふれている進化の一種だと私は思います。見た目の変化はなくても、確実に自分の思い、考えが広がって次の新しい自分に進化していく。これは自分とは違う人と協力して同じ課題について協力していく、その過程で受ける自分とは違う考えの人からの刺激によつて出る成果だと考えるからです。「三人寄れば文殊の知恵」このことわざからも同じものを感じます。もちろん、それは自分と違う意見を拒まずに受け入れる、協力のための協調性が必要不可欠です。

私は日々の進化のチャンスをつまみ離さず、授業の話し合いやスポーツなどでの協力の大切さをこれからも実感していきたいです。

信頼のバトン

《中学生の部 入選》

井口中学校二年 衛藤 明日菜

先日、私の通う中学校で体育祭が行われた。見事、私のクラスは学年優勝し、皆が歓喜に包まれた。両親は「皆で協力出来たおかげだね」と言った。私も「そうだね」と頷いた。

だが、私は思った。「協力する」とは、どういうことなのだろう。皆で力を合わせるだけで「協力」と言えるのだろうか。否、私は思わない。ただ単に力を合わせるだけなら、誰でも出来るからだ。

では、「協力」に大切なものとは一体何なのだろうか。私が思うにそれは、『相手を信頼し、自分も信頼されること』だ。例えば、体育祭の学級対抗リレー。相手を信頼し、バトンを託す。渡してくれた相手を信頼し、バトンを受けとる。こんな一瞬の場面にも、たくさんの信頼と協力が詰まっているのだ。つまり「協力」とは、仲間同士で「信頼」を繋いでいくことなのだ。

私の学校では、秋に合唱祭がある。合唱祭でも、来年の体育祭でも、高校生になっても、「信頼のバトン」を繋げ合い、力を合わせて「協力」していこうと思う。

皆が同じ気持ちで

《中学生の部 入選》

井口中学校二年 向井 つむぎ

力を合わせて取り組むということ。それは、一人が頑張るのではなく、皆が同じ目標に同じ気持ちで向かっていくことだと思う。

私は六年生の時、クラスで合奏をするイベントがあった。もちろんクラスの皆で行うのだから、音楽が苦手な人、嫌いな人もいたと思う。けれど、本番にはそれを感じさせないくらい素敵な演奏に仕上げる事が出来た。確かに、クラスの練習量は多かったと思う。しかし何より、クラスで合奏について話し合う時間がとてもなく多かった。それは、クラスが一つにまとまり、一人一人が自分ゴトとして捉えられるようにするためだったのだと思う。今思えば、話し合いを重ねるごとにクラスの間が団結力が増していたような気がする。

私は、中学生になってたくさんの行事で力を合わせて取り組む機会があった。けれど、同じ気持ちで皆が取り組んでいたのだろうかとモヤモヤしたまま終わることがほとんどだった。この作文を通して、自分を振り返る良い機会になったと思う。人任せにせず、皆が同じ気持ちで、これを胸に頑張りたい。

力を合わせて取り組む大切さ

《中学生の部 入選》

東原中学校二年 安宿 ひかり

私が思う力を合わせて取り組むということは、一人一人が互いに支え合いながら物事を最後まで成し遂げるということだと思います。

例えば、私の体験でいうと、部活で分からないことがあった時、先輩が教えながら一緒に練習してくれたことで一人でも出来るようになって嬉しかったと思つた日、逆に自分が友達に力を貸すことで「ありがとう」と言つて貰えた日、どちらも私は、とても幸せなことだと感じました。

力を合わせることは、苦手なことでも、互いに協力することでまた一歩成長できるとというのが最大の良さだと思います。また、私は仲間の大切さにも気づき、取り組む前よりも相手に対して優しく接することができるようになるということも協力する中での一つの良さだと思います。

まわりにいる人に注目することで、相手が困っているのか分かったりするので、様子を感じ取つて自分から手を差しのべることも大切だと思うし、自分から助けを求めることも大事だと思います。

協力の鍵 力を合わせるときに大切にしたいこと

《中学生の部 入選》

A I C J 中学校二年 末松 明

私が協力する時に特に重要だと思うことは、感謝の気持ちと優しさです。

「ありがとう」という言葉で、心が温かくなる経験は誰もがしていることではないでしょうか。感謝の気持ちを伝えると伝えた側も伝えられた側も心が温かくなり、優しい気持ちになります。お互いを認め、感謝の気持ちを示すことで、お互いの絆を強めることもできます。

相手に対して感謝の気持ちを持っていれば、意見の食い違いや反発があっても相手を思いやる優しい気持ちで譲り合うこともできます。自我ばかりを通していたら、意見の食い違いや反発を一つにまとめることはできません。しかし、思いやりがあれば気持ちを一つにすることができます。

相手を思いやる優しい気持ちは、自分も相手も大切にすることに繋がります。お互いの意見や考えを理解し尊重することは優しさに繋がると思います。

力を合わせるときに大切にしたいことは優しさと感謝の気持ちだと思います。

「力を合わせる」ということは

《中学生の部 入選》

大州中学校三年 生徒

私は「力を合わせる」ということは、信じ合うということだと思う。

生活の中で私たちはたくさん「力を合わせる」場面がある。例えば、部活動や体育祭、文化祭などだ。みんなが同じ目標を目指す中で、うまくできないこともあると思う。それを悪く言ったり、途中で一緒にがんばることをあきらめると目標を達成することはできない。だから私は「信じ合うこと」が大事だと思う。仲間同士が信じ合い、同じ方向を向くことで力を合わせ、目標を達成することができたり、最後までやり切ることができたりするのではないかと感じる。また、信じ合うことで良い信頼関係も築くことができると思う。私は国際的にも同じようなことが言えると思う。互いの国が信じ合うことで、世界が平和へと進むことができ、助け合いのできる世の中になっていくと思う。

私はこれからの「力を合わせる」場面で信じ合うことを大切にしていきたい。また、たくさんの人々が「信じ合える」世の中になってほしい。

「壁」か「かぶ」か

《中学生の部 入選》

中広中学校三年 生徒

力を合わせるとは何だろうか。互いに相手に力つまり負担をかけ合うことではない。力を合わせるといふと協力というワードと直結するかもしれないが、私は単に重い壁を押しつけていくように協力するのではなく、大きなかぶを引っぱるように協力することだと考えている。大きなかぶは抜けるまで、そのかぶが本当に大きいのかどのような形なのかわからない。つまり、力を合わせるとは、協力することによってはじめて見えなかったものが見えることである。

では、かぶを抜くために何が大切か。例えば部活で試合に勝ちたいと皆で思っている、練習法などで衝突が起こる。しかし、ここで大切なのはみんなと同じ方向を向いていること。衝突が起こるといふことは課題に積極的であるということ。つまり、相手を尊重しつつ、みんなと同じ方向を向くことが大切なのである。大きなかぶは一人で抜けないように力を合わせるときには早く抜くことよりも、どんな協力や意見があつたのか、その過程の方が大切なのではないだろうか。

自らの役割を探して

《中学生の部 入選》

古田中学校三年 井上 あかり

「力を合わせる」と聞いて、「合わせる」という部分にいつも疑問を感じる。学校生活でも「力を合わせて○○しよう」などとよく耳にするが一体、どれだけの人が力を「合わせて」いるのだろうか。

私は自分の学校の伝統である無言清掃で力を合わせることは何かを知った。無言清掃では約十分の間、一人一人が私語を慎み、自分の役割を全うする。この「自分の役割全うする」ということが「合わせる」ということのヒントになるのではないかと感じた。清掃に例えれば、雑巾係だけでは教室はきれいにならないように集団の中で力を合わせる場合も一人だけが行動を起こしてもどうにもならない。

私は、この出来事から、自らの役割を見つけ、行動に移し、集団に一人一人が貢献することこそが「力を合わせる」ということではないかと思った。だからこそ、些細なことでも自分にできることを探すことで仲間と力を合わせることに繋がるし、自分の力を伸ばす、きっかけにもなるのではないだろうか。

力を合わせたその先に

《中学生の部 入選》

安佐中学校三年 塚本 真悠

「がんばれがんばれ黄組！」

雲一つない青空に声援が響く。その声援の中を私は全力で走り抜ける。中学校生活最後の体育祭は今までにない盛りあがりをみせ、閉幕した。

今年の体育祭では、今までコロナの影響でなくなっていた応援歌が解禁された。やったことがなく不安な気持ちもあったが、体育委員を中心にクラスで何度も練習した。普段伴奏なしで歌うことがあまりなく歌が苦手な私は、最初は緊張やためらいの気持ちもあった。でも、クラス全体で「がんばろう」という気持ちが高まるにつれて私も声を出して一生懸命取り組んだ。そして迎えた体育祭。団長の声を合図に学年をこえた黄組全員の声が一つに結集した。力を合わせて取り組んだ結果だと思ふ。そして、その声援は競技をする人の支えとなったはずだ。私もその一人である。

この体育祭を通して、力を合わせるには全員が目標に対して同じ方向を向き協力することが大切だと感じた。そうすることで周囲の人ともまきこんで良い結果につながると思う。